

## 第5回 練馬光が丘病院運営連絡協議会

開催日 平成26年11月5日(水曜日)

時間 15時～16時30分

場所 地下1階大会議室

出席者 別紙A参照

内容 別紙B参照

### 議事

#### (1) 運営連絡協議会について

##### 【貞盛係長】別紙①および②のとおり説明

練馬光が丘病院については、公益社団法人地域医療振興協会が日本大学から引き継ぐ形で、平成24年4月から運営を開始している。

病院の開設運営に当たり、区民の方へ安定した医療を提供し、地域医療の充実に資することを目的とし、地域医療振興協会と練馬区との間で基本協定書と協定細目を締結した。

基本協定書については、病院が地域に医療を提供する中核的な役割を果たす病院として練馬区内の医療提供体制の向上を図るために開設するものであることや、重点医療として、救急医療、小児医療、周産期医療および災害医療を行なうものであることなどを定めている。

他として、開かれた病院として運営することに努力し、区民の方の要望を出来る限り尊重することについて、それを達成するために病院運営連絡協議会を設置するとしている。

また細目では、本協議会を年2回程度開催すること、委員からの意見を可能な限り反映すること、協議会の構成などについて定めている。

以上、本協議会は協定書ならびに細目の規定によって設置されているものである。

##### 【高瀬次長】別紙③のとおり説明

#### (2) 運営状況について

##### ①利用状況、重点医療について

##### 【南雲課長】別紙④～⑧のとおり説明

##### 【古賀委員】

病院の規模に比較して患者数が多いのか少ないのか、これが問題であると思うが、やはり一番大事なのは病床利用率や平均在院日数であると思う。

特に病床利用率が経営に影響していると思うので、出来ましたら平均在院日数を含めて、病床利用率を教えてください。また、実際にはどの程度を目標にして運営しているのかお聞きしたい。

##### 【藤来管理者】

病床利用率については、80%を若干下回るくらいである。

目標としては、85%を目標として考えている。

在院日数について、12日から13日を若干切るくらいである。

目標としては、出来る限り短くしたいのであるが、様々な事情で在宅には戻れない方もいるので、経営側として現場に何日に設定いただきたい旨は伝えてはいない。

##### 【古賀委員】

80%以下の利用率であると勿体無い気がしている。まだまだやっていただきたいと思っている。

救急の需要に関して、都内ではオーバーフローしている状態であるが、練馬区内にあっては受け入れ状況が良いとお褒めもあるので頼もしい。

しかし、救急もやって一般もとなると、病床利用率が80%に届いてないと経営状況を良くする工夫が必要ではないかと思っている。最後に、分かれば構わないが、救急入院での病床利用率をお聞かせいただきたい。

##### 【南雲課長】

資料の持ち合わせがないので、後日回答をさせていただきます。

##### 【とや委員】

病院のスタッフについて、人数的には安定しているように感じるが、特に常勤医師については同じ方が常時勤めている

のかについてと、どのように改善されたかについてお聞きしたい。

【藤来管理者】

開設当初は入れ代り立ち代りの状況であったが、現在では一部の科を除き、全て当院の医師である。短い期間で交代してしまうことは、ほとんどない状況である。

【とや委員】

ぜひ安定的な運営が出来るよう引き続きお願いしたい。

【金重委員】

外来の待ち時間がかなりあるようであるが、原因や解決策をお聞かせ願いたい。

【藤来管理者】

待ち時間については把握している。

診察の待ち時間が長いのか、会計の待ち時間が長いのか、検査の待ち時間が長いのかなどについて、検討し対策は図っている。

迷惑をかけていることは理解しているし、何らかの対策は講じているので、ご理解いただきたい。

【高瀬次長】別紙⑨のとおり説明

【とや委員】

4つの重点医療については、開設当初からぜひ拡充していただきたいと議会などでも発言させていただいたが、この間救急についてはかなり受け入れをしていただいていると話は聞いている。

小児と周産期について、小児について患者さんの数と体制のバランスというのがあると思う。

これを徐々にどのようにしていきたいのが1点、もうひとつは周産期について、区内にお産のできる病院が6ヶ所から7ヶ所くらいしか練馬区にはないので、ほとんどの妊婦さんが区内出産をできないというような状況がある。

また、リスクの高い出産に対応していただきたいという要望をさせていただきたいが、特に周産期連携病院としての位置づけを光が丘病院にぜひお願いしたいと思っている。

もちろん周産期連携病院というのは、小児、内科、合併症やNICUの体制を整備していかなければならないという条件がいろいろあると思うが、確か北社会保険病院は連携病院に登録されていたと思う。

そのような体制を取られている協会なので、実施に向けて検討をいただきたいと思っている。

区の方にも質問をさせていただいたが、協議はしていると聞いているが、その状況と今後協会としてどうしていくのか、考えも合わせてお聞かせいただきたい。

【藤来管理者】

小児医療について、日大時代には小児の患者さんが多かったと聞いている。

こちらとしても、患者さんの受診要請があれば断らずに受けているという状況である。

ただ、色々な事情があり実績としては少ないという状況である。

実績が上がってくれば体制を整えて、断ることがないようにやっていきたいと思っている。

周産期連携病院について、東京北医療センターは周産期連携病院として実施している。

近隣であれば順天堂なども連携病院になっていると思うが、これをやろうと思うと産婦人科だけの問題ではなく小児科であったり、合併症の関係で内科であったりNICUであったりと色々整備しなければならないものがあると思う。

練馬区からも前向きにと聞いており、病院としても前向きに検討はしているが、物や人など諸々を整備していかないといけない。

実施したけれど十分な診療ができませんでしたとなつては、責任がないというか不十分な形となつてしまい申し訳ないと思う。しっかりと整備し、練馬区と連携して検討をしていきたい。

まったくやる気がありませんということではなく、協会としても実施病院があるので、しっかりとした形で行なえるようにと思っている。

【川上病院長】

周産期医療は非常に難しいものであり、医師や看護師など特別なトレーニングをしてきた方達で行なわないとならない。責任を取れる形で行なわないとならないので、今後整備をしていきたいと思っている。

ただし、いつにとという約束はできないが、その方向性でということをご理解いただければと思う。

【とや委員】

ぜひぜひ努力をしていただきたいと思う。

開設当初は色々な報道もあって、なかなか周産期は難しいので慎重にならざるを得ないと思うが、練馬区の現状を考えていただき、周産期連携病院として応えていただきたいと思う。

【貞盛係長】別紙⑩のとおり説明

②地域活動

【本池係長】別紙⑪のとおり説明

(3) 建替えについて

【貞盛係長】別紙⑫のとおり説明

【高橋委員】

この問題は非常に難しい。病院だけでも区だけでも出来ないことである。  
開発の段階で地権者が4千人を超えているので、ちょっとした行き違いで反対派が騒ぎ出すことになる。  
情報に関しては、事前に発信いただきたい。

【古賀委員】

最後に申し訳ないが、病院の経営に関するデータはどこまで出していただけるのか。  
興味があるのは人件費であるが、出せる範囲で出していただきたい。  
また、資料は事前に送付いただけるとありがたい。

【藤来管理者】

検討はさせていただく。

(4) 次回日程について

【川上病院長】

来年3月下旬を予定する。